



# なるほど！用紙豆知識

用紙について一般的な知識を説明します。

## 用紙にはこんな種類があります

Versant 180 Pressでは、非塗工紙(上質紙や再生紙、中性紙など)、塗工紙(キャスト紙やアート紙、コート紙など)、アプリケーション用紙(ラベル紙や封筒、フィルム紙などの特殊用途紙)が使用できます。また、用紙には厚みがあり、坪量\*が目安となります。用紙の種類と坪量に適した設定をしてください。

※「坪量(質量)と連量について」を参照してください。

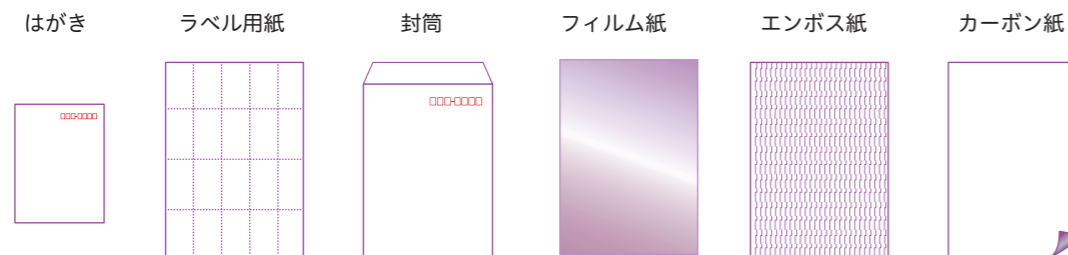
**非塗工紙** プリンター向け、オフセット印刷機向けの上質紙や再生紙、中性紙など

**塗工紙** グロス系とマット系があります。コート量は目安です。

キャスト	A1アート	A2コート	A3軽量コート	アートポスト
コート量： 40 g/m <sup>2</sup> 以上	コート量： 40 g/m <sup>2</sup> 以上	コート量： 20 g/m <sup>2</sup> 以上	コート量： 15 g/m <sup>2</sup> 以上	コート量： 20 g/m <sup>2</sup> 以上 坪量： 200 g/m <sup>2</sup> 以上

- グロス系  
光沢があり、カラープリントに適している
- マット系  
光沢を抑えてあり、写真や画像と文字を同時に印字するのに適している

**アプリケーション用紙(特殊用途紙)**



## 坪量(質量)と連量について

用紙の重量は「坪量」や「連量」で表します。坪量や連量は、用紙の厚さの目安になります。

「坪量」とは、用紙の面積1m<sup>2</sup>あたりの重さのことで、単位は「g/m<sup>2</sup>」です。

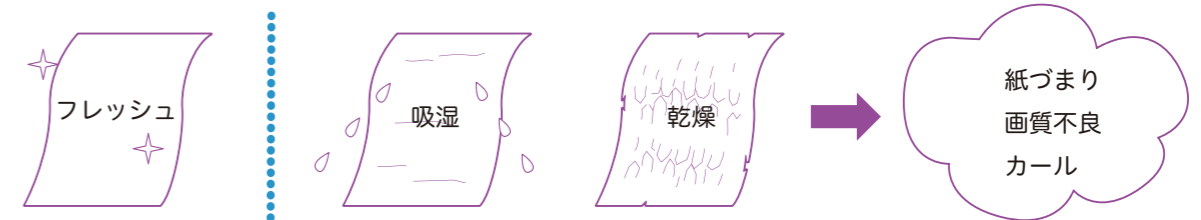
「連量」とは、平判1,000枚(一連)の重さのことで、単位は「kg」です。連量は、一般的に「四六判kg連量」が使われていますが、まれに菊判やA判が使われることもあります。

<p><b>坪量</b></p> <p>■ 用紙の面積1 m<sup>2</sup>あたりの重さ ■ 単位：g/m<sup>2</sup></p>	<p><b>連量</b></p> <p>■ 平判1,000枚の重さ ■ 単位：kg</p>
---	---

もっと詳しく！ 坪量と連量の換算表は、マニュアルをご確認ください。  
Versant 180 Press: 『ユーザーズガイド』 > 「3用紙のセット」

## 吸湿と乾燥について

用紙は植物性のパルプ繊維から作られ、外気の水分を吸ったり乾燥したりします。紙づまりや画質の不具合、反り(カール)などの原因となるため、なるべく開封直後のフレッシュな状態でご使用いただき、保管状態にもご配慮ください。

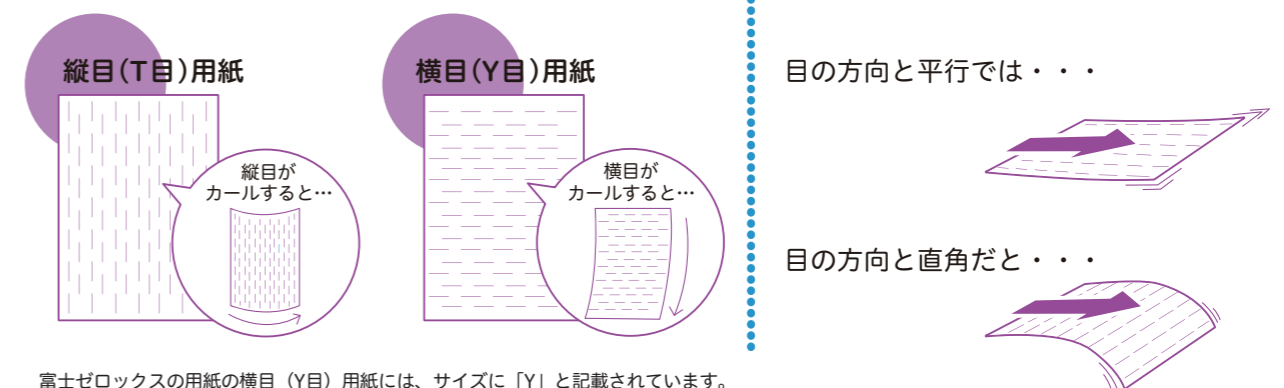


一般的な用紙の水分量は4~6%(未開封状態)で、含水時には約10%、乾燥時には約3%まで変動します。

## 目(紙目)と裏表について

用紙の製造過程で「目(繊維の方向)」ができます。長辺と平行に目がある用紙を「縦目(T目)用紙」、短辺と平行に目がある用紙を「横目(Y目)用紙」と呼びます。用紙は湿気を吸ったり乾燥したりすると、目に沿って曲がる性質(カール)があります。用紙のコシも目に沿って強い・弱いがあります。

また、用紙(特に片面コート紙やラベル用紙など)にはおもて面とうら面があります。用紙トレイに用紙をセットするときは、目や裏表に留意してください。



富士ゼロックスの用紙の横目(Y目)用紙には、サイズに「Y」と記載されています。詳しくは、弊社公式サイトをご覧ください。

## 保管と取り扱いについて

用紙は外気の水分の影響を受けやすく、また衝撃によって変形しやすいため、次のことに注意してください。

- 用紙はキャビネットの中や、湿気が少ない場所に保管してください。用紙が湿気を含むと、紙づまりや画質不良の原因になります。
- 開封後、用紙の残りは包装紙に包んで保管してください。
- 用紙は、折れや曲がりを防ぐために、立てかけずに水平に保管してください。
- 直射日光を避けて保管してください。